



19<sup>th</sup> Asian Athletics Championships in HYOGO・KOBE

## LOC News Release

2011.7.6.

NO.1

### 【LOC ニュースリリース】

110mハードルの劉翔（中国）が、記者会見

2004年アテネオリンピック男子110mハードル金メダリストで、同種目前世界記録保持者、アジア記録保持者の劉翔（中国）が7月6日午前、兵庫県神戸市内のホテルにおいて記者会見を行った。会見内容は下記の通り。

——まず、劉翔選手から今大会の抱負を

アジア選手権の参加は、今回で4回目となる。この大会の目標は、前回のアジア選手権の記録を破ることだ。

### <質疑応答>

——世界選手権に向けての抱負と、大会までのプランは？

世界選手権の最大の目標は、決勝に進むこと。決勝に進めば、いい記録も残ると思うので。

——今季は13秒0台を2回するなど好調。その要因は？

2つの要因がある。1つは、私のコンディション自体が回復して、いい方向に向かっているということ。そして最も大きな要因となっているのは技術改良をしたこと。これまでスタートから第1ハードルまで8歩で走っていたのを7歩に変えた。これは一番の大きな理由だと思う。

——技術改良に取り組むに当たって不安はなかったか？

新しいことに挑戦するのは、最初は不安だらけだった。8歩から7歩に変えることで、記録が本当に向上するのだろうかという思いもあった。しかし、挑戦してみて、今はやってよかったと感じている。

私も今年28歳（1983年7月13日生まれ）。もう若いとはいえない。18～19歳のころから練習をスタートさせて、（アスリートとして）もう10年経った。その10年



19<sup>th</sup> Asian Athletics Championships in HYOGO・KOBE

## LOC News Release

の間、例えば最悪の状態だった2008年であっても、毎年13秒2台では走ってきた。（これからも向上し続けるためには）年をとるに従って、自分に何か突破口を見いだしていかなければならないと考えている。「毎日進まなければ必ず後退する」という中国のことわざもあるように、前に進まなければ後退してしまうので、勇気を持って新しいことに挑戦したい。

——北京オリンピックでは悔しい思い（故障のため棄権）をしたと思うが、そこからの復調の支えになったものは？

信念です。あきらめないという思いが私を支えてきた。苦難もあれば楽もある。いつも順風満帆というわけではない。そういう波があるからこそ人生だと思っている。そのことは、選手としても、人間としてもいえることだろう。

——技術改良について。8歩を7歩に変えることで必然的にスタート脚のセッティングも逆になったはず。その改善の難しさはなかったのか。

8歩から7歩に変えるのはとても難しかった。これまでは右脚でスターティングブロックを蹴っていたが、それを左脚でやることになったので。また、歩数を少なくすると、今までよりも重心を低くして、1歩1歩の推進力を高める必要がある。さらに、それにあわせて重心を移動させていかなければならない。そうした一連の動きをマスターしていくことは非常に大変だったが、私は変えてよかったと思っている。

——第1ハードルまでの歩数を変えた理由は？

現在の自分のコンディションを考えると、第1ハードルまでを7歩で走ったほうが、8歩で行くよりもリズムがいいということで採用することにした。

——世界選手権でライバルになるであろうD・オリヴァー（アメリカ）と、今季は一勝一敗。彼に対する印象は？

私もオリヴァー選手は、現段階では一番実力がある選手だと思う。



19<sup>th</sup> Asian Athletics Championships in HYOGO・KOBE

## LOC News Release

——世界選手権は12秒台での勝負になると思うが、12秒台に対する手応えは？

世界選手権だからいっても優勝記録が必ず13秒を切るとは限らない。条件によっては13秒1台でも優勝する可能性はある。

今回のテグ世界選手権には、オリヴァー選手のほかにも、世界記録保持者のダイロン・ロブレス選手（キューバ、2008年北京オリンピック金メダリスト）や、そのほか多くの強い選手が出場してくるはずだ。おそらく決勝は歴史に残るレースになるだろう。もちろん、私もベストを尽くすつもりだ。

——日本では3月に東日本大震災が起きた。それについてのコメントを。また、5月のゴールデングランプリ川崎は、劉翔選手自身は出場の意向を示しながら、最終的に欠場することになった。その経緯を聞かせてほしい

3月11日に起きた東日本大震災のことはもちろん知っている。隣国の日本がこんな大きな災難に見舞われたことを悲しく思う。1日も早く普通の生活に戻れるように、日本政府、そして被災者の方々には立ち向かって行ってほしい。日本の国民は強いと私は信じている。

ゴールデングランプリ川崎の欠場については、上海で開催されるダイヤモンドリーグと日程が近いということもあり、総合的に考えて、自国（中国）で行われる試合を万全の状態を迎えるために決断した。川崎に出場できなかったことは、本当に申し訳なかったし、私自身も残念に思っている。

(2011.7.6.12:30)

LOCメディアチーム